

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：ひびき保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：玉沢 寛	定員（利用人数）： 60名（69名）
所在地：〒221-0005 横浜市神奈川区松見町1丁目10番3号	
TEL：045-718-5671	
ホームページ： https://www.sodachinomori.com/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2009年4月1日				
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 そだちの杜				
職員数	常勤職員：	18名	非常勤職員：	14名
専門職員	保育士	20名	管理栄養士	1名
	栄養士	2名	調理師	2名
施設・設備 の概要	(居室数)		(設備等)	
	保育室4室、厨房1室、職員休憩室2室、 事務室1室、予備室1室、ホール			

③理念・基本方針

保育理念

子ども一人ひとりを大切にし、保護者と共感しあいながら保育をすすめ、地域・社会に貢献できる保育園を目指します

保育目標

I 早寝・早起き・午前昼寝の実践

①1日24時間の生体の生活リズムに添って、早寝、早起き、午前中の昼寝の実践をする

II 基礎的な身体の動きを育てる

①楽しくからだを動かすことを大切にしながら、基礎的なからだの動きをしっかりと身につける

②造形活動などを通して、手の動きを育てる

III 自己肯定感・生きる意欲を育む

①大人や仲間に見守られながら、“できた”喜びを積み重ね、自己肯定感を持つ

②友だちや保育士と楽しく向かい合い、快の情緒の中で豊かな表現力とコミュニケーション能力を身につける

③行事や日常生活の中で伝統や文化を大切にし、情緒豊かな子どもを育てる

④身の回りの仕事や手伝いを経験する中で、生活していく力を育てる

⑤知的好奇心や探究心・冒険心を育てながら、就学前に必要な基礎的な力を身につける

IV ノーマライゼーションの理念に基づき、障がいのある子どもない子どもも、ともに楽しく暮らす

①統合保育、及び個別対応できる保育体制をつくる

②療育センター・保健センターなど各関係機関との連携

③子育て相談（園児・地域）の実施

① 施設・事業所の特徴的な取組

生体の生活リズムを整えるため、午前睡を取り入れています。朝の活動では基礎的な身体の動きを育てるためハイハイ運動を中心としたリズム運動を実施しています。幼児クラスでは雑巾がけから朝の活動が始まります。昼食には咀嚼力を育てるため胚芽米、和食中心の献立と卵を使わない給食を提供しています。午後は広い場所で活動するためお散歩に出かけることが多いです。幼児クラスではあおり歩行を促すため、草履をはいて散歩に出かけています。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年4月21日（契約日）～2022年2月22日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2016年度）

⑥ 総評

◆特に評価の高い点

● 子どもたちは、素直に自分を表現し、元気いっぱい園生活を楽しんでいます

園は、子どもが楽しみながら基礎的な身体の動きを身につけられるようプログラムを工夫しています。3・4・5歳児の朝は、広いホールの雑巾掛けから始まり、手押し車、リズム運動と思いきり身体を動かします。保育士との綱引きをするなど、楽しみながら身体を動かせるようにプログラムを工夫しています。0・1歳児と2歳児はクラスごとに、リズム運動やマットや巧技台を用いた運動遊びなどを子どもの発達段階に応じた運動遊びをしています。思いきり身体を動かした子どもたちは、主活動に集中して取り組むことができます。活動内容は、製作や音楽遊び、食育など、子どもが様々な経験を通して自分らしさを発揮できるような多様なものとなっています。

園はコミュニケーション力の育成にも力を入れていて、保育士は、子どもの言葉や表情などから子どもの思いを汲み取り、子どもに共感して前向きな言葉をかけることで、子どもの言葉を引き出しています。保育士に自分の思いを受けとめてもらい、できたことを一緒に喜んでもらうことで、子どもたちは自分の思いを言葉で表現するよう育っていて、たくさん話し、たくさん笑って、友だちと一緒に様々な経験をし、園生活を元気いっぱい楽しんでいます。

● 保育士は話し合いの機会を多く持ち、一人ひとりの子どもの姿を大切に保育しています

保育士は、日々の振り返りや職員会議等で保育内容が理念や方針に沿っているかを確認し、目指す方向性を共有しています。全園児、個別の月間指導計画と個人記録を作成し、子ども一人ひとりの発達段階に合わせて保育を行っています。毎月のクラス会議では、クラスの状況だけでなく、子ども一人ひとりの姿について話し合っ課題を抽出し、目標をたてています。保育士は、クラス会議、幼児会議、職員会議と子どもの様子についての話し合いを重ねて、子どもへの対応を統一し、子どもと一緒に楽しみながら保育にあたっています。

● 障がいなど様々な課題を持つ子どもを積極的に受け入れています

保育目標に基づき、障がいなど様々な課題を持つ子どもを積極的に受け入れています。発達支援の保育士を配置し、障がいのある子どももいない子どもと一緒に生活できるように支援しています。クラス会議には、発達支援グループのリーダーが入りクラスの活動に合わせて個別指導計画の調整をしています。障がいの特性に合わせて個別の課題の時間も作っています。保育士が子どもに接する様子を見て、子どもたちは障がいのある友だちを自然に受け入れています。また、担当が横浜市東部地域療育センターに療育の様子を見学に行ったり、ケース会議に参加するなど、関係機関と連携して子どもの生活を支えています。

◆改善を求められる点

● 中長期計画に基づく事業計画を策定し、職員と共有していくことが期待されます

単年度の事業計画は策定していますが、中長期計画は策定されていません。園の理念や方針の実現に向けた将来のビジョンを明確にするとともに、その実現に向けた人材育成や施設整備などについての中長期的な取り組みを文書化した中長期計画を策定することが期待されます。また、中長期計画を基に、保育内容だけでなく運営面での課題も盛り込んだ事業計画を策定し、職員と共有することが期待されます。

● 職員が見通しを持ってキャリア形成できるよう、人材育成計画のさらなる充実が期待されます

今年度人材育成計画を策定し、階層ごとに求められる目標やそのための取り組みを明文化しましたが、それを基にした研修計画は新人職員のみで、3年以上の職員研修計画の策定はなされていません。また、人事考課や昇進・昇格の基準の策定も今後の課題となっていて、職員が見通しを持って将来像を描けるものとはなっていません。人材育成計画をさらに充実させて、理念の実現に向けて人材育成を計画的・体系的に行っていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回の第三者評価を通して、保育の内容に関しては高評価をいただき、これからの励みにしつつ、課題となった運営面や今後の継続などマニュアルの整備や研修の実施などしっかりと継承していける体制づくりの弱さを感じたところです。

この保育園がいつまでも地域の中で育っていくために、中長期の計画を立てるとともに実行、反省を繰り返し、課題を明確にしたうえで、その時々合ったサービスや保育を検討していきながら、これからも地域・社会に貢献できる保育園を目指していきたいと思えます。

今回アンケートなどにご協力いただいた保護者の方々どうもありがとうございました。引き続きよろしくお願ひします。

ひびき保育園
副園長 松塚 直紀

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり